

港区立青山中学校
平成 29 年度 授業改善推進プラン

教育目標

人権尊重の精神を基調として、心身ともに健康で、知性と感性に富み、生涯を通じて主体的に学び続け、国際社会に貢献できる人間性豊かな生徒の育成を目指した教育を推進する。

- ねばり強く、真剣に学習する生徒
- 思いやりの心を持ち、奉仕する生徒
- 進んで心身の健康に努める生徒

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

- ① 各教科において、基礎・基本の確実な定着を図る指導を行うとともに、発展的な学習を計画的・段階的に取り入れる。
- ② 各教科において、習得した知識や技能を活用する機会、生徒が自ら考え、その考えを発表する機会を整備し、授業への能動的な関わりを強め、思考力、判断力、表現力等の育成に努める。そのため、「教科等横断的にコンピテンシーを育成する指導の実践」を主題に掲げ、校内研究を実施する。
- ③ 適正な評価規準を設定して学習状況の評価を実施する。また、生徒の学習の達成状況と課題を的確に把握して 3 年間累積し、個に応じた指導を充実させる。
- ④ デジタル教科書、電子黒板、タブレット端末等の ICT 機器を活用し、生徒の興味・関心を高め、個々の課題に対応できる授業を工夫する。
- ⑤ 漢字検定、数学検定、実用英語技能検定を学校を会場に実施し、また、各種コンクールやコンテストへの応募を促進することにより、目標をもって学習に取り組みせ、学習意欲を高める。

昨年度の成果と課題

生徒の思考力、判断力、表現力等の育成を図るため、港区教育委員会研究奨励校として、「教科等横断的にコンピテンシーを育成する指導の実践」を主題に実践・研究を進めた。

その結果、各教科において習得した知識や技能を活用する機会を増やし、生徒が自ら考え、その考えを発表する機会を整備するなど、授業への能動的な関わりを強めるための基礎作りができた。

その一方で、発表等に時間をかけるあまり、基礎・基本の定着や自らの考えを深化させる時間が不十分であった点が課題である。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○言語活動の充実 ○土曜授業の有効活用 ▲「MINATOカリキュラム」による幼、小・中の接続を図った各教科等の指導	○思考力、判断力、表現力等の育成 ○生徒の授業への能動的な関わりを促進 ○基礎的・基本的内容の定着 ○検定、コンクール等の実施	○生徒、保護者に評価の方針、方法を説明 ☆保護者に評価に関する資料の配布、説明会の実施 ▲指導と評価の研修	○校内研修による授業改善の実践 ○「青山アカデミー」の幼、小・中の連携 ▲ICTの活用	○学校公開週間および公開日を通年で設定 ○学校行事への保護者・地域の参加促進 ○地域行事への生徒の参加促進

具体的な取組

・話し合い活動を取り入れた学習指導の計画と実践 ・数学科、英語科の習熟度別少人数授業の実施 ・土曜授業の有効活用	・研究推進委員会を中心とした授業改善 ・校内研修会での授業実践 ・漢字検定、数学検定、実用英語技能検定の年間各 2 回以上の実施 ・作文コンテストや標語コンクールへ、美術作品(ポスター)コンクールへの参加 ・科学コンクールへの参加	・保護者対象の評価説明会の実施 ・各教科の評価計画(年間計画、評価規準、評価材料等)の改善のための資料の整理	・校内研修における研究授業および協議会の実施 ・「青山アカデミー」の幼、小・中の教科ごとの分科会による実践、研究 ・ユニバーサルデザインを意識した授業の実践 ・タブレット端末を積極的に用いた授業の計画及び実践	・各学期 1 回の学校公開週間の実施 ・学校説明会の年間 2 回の実施 ・土曜授業日の学校公開実施 ・地域の事業所、高等学校、大学等の支援による職場体験、美術館見学、「出前授業」、高等学校体験授業の実施
--	---	---	---	--

☆→今年度からの取組 ○→定着・継続している取組 ▲→活性化が必要な取組